

## ■■■ 施設見学会 ■■■

# 浅川清流環境組合 可燃ごみ処理施設

技術委員会副委員長 小野 義広  
(日鉄エンジニアリング株)

### 1. はじめに

技術委員会による施設見学が令和3年7月9日(金)に行われた。新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置発令下の難しい対応が迫られる中で、万全の感染対策を整え、我々の見学にご対応頂いた浅川清流環境組合様、浅川環境テクノロジー様に多大なる感謝の意を表したい。

技術委員会としても受け入れて頂いた皆様にご迷惑をお掛けすることが無いよう、十分な留意のもとで訪問した。

### 2. 施設概要

事業主体：浅川清流環境組合  
(日野市、国分寺市、小金井市)

事業方式：DBO 方式

処理能力：228t/日 (114t/日 × 2 炉)

処理方式：ストーカ炉

発電設備：蒸気タービン発電機 5,190kW

施設面積：建築面積約 5,180㎡、  
延床面積 14,920㎡

建物高さ：32.6m (煙突 85m)

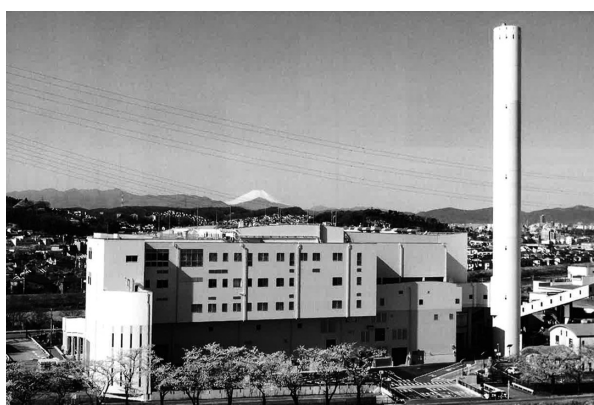
竣工：令和2年(2020年)3月

### 3. 施設の特徴 (パンフレットより)

- ・地下掘削を最小限とし、プラットホームを3階に設けています(筆者注：多摩川、浅川に囲まれた、地下水位および洪水対策面からの配慮と思われる)。また、建物最高高さも抑え、

建築物をコンパクトにしています。ごみ収集車は、スロープを走行し3階のプラットホームよりごみピットへごみを投入します。

- ・ごみ焼却の排熱を利用した発電を行っており、災害時でも自立した運転が可能です。また、発電した電気は本施設で使用し、余剰分は売電しています。
- ・施設内は誰でも自由に見学できます。4階と6階の見学者エリアを一巡することで、ごみ処理の流れが学べます。
- ・6階は、災害時に避難者の受け入れスペースとして利用することができます。また、備蓄スペースも確保しています。
- ・屋上には太陽光発電パネルや屋上庭園等を設け、環境に配慮しています。



可燃ごみ処理施設  
(浅川清流環境組合パンフレットより)

### 4. 見学記

見学は技術委員13名、事務局2名の合計15

名が参加して行われた。まず驚いたのは施設入口に立ってみての敷地の狭隘さであった。敷地は多摩川、浅川の合流部のほぼ三角形ともいえる敷地で建設工事の困難さは誰がみても明らかであった。工事中は、搬入物の仮置き場や、作業員の駐車場、現場事務所の配置（敷地協の用水路の上に橋を渡して設置！）等に変な苦労があったとのことであった。

施設内に入ってみると、狭隘な敷地ながら見学者のスペースは避難者受け入れも兼ねているだけあって十分に確保されていた。通路には建設工事の定点写真による施設が出来上がっていく様子がパネルに並べられており、我々プラントメーカーの目では工事の苦労が実感できる貴重な資料となっていた。ごみピットに投入されているごみがカラフルであることが印象的であったが、これはごみ袋が日野市は「青」、国立市は「黄」、小金井市が「オレンジ」と分かれているためであった。小学生が見学する際には自分の市のごみは多いとか少ないとか興味をもって眺めることになるのであろう。また、あえて大きなスペースを割いてごみのにおいを嗅がせるコーナーを作るなど見学者に飽きさせない工夫が随所に見られた。見学者ルートや屋上庭園から多摩川や浅川が見下ろせることも大きな魅力となっている。



施設建設工事の定点写真が飾ってある  
見学者通路



展示しているカラフルなごみ袋

#### 4. おわりに

2つの河川に囲まれた、プラントメーカーの視点ではやっかいな立地ではあるが、だからこそ災害対策・強靱化への配慮が周辺住民への安心感に繋がり、ひいては廃棄物処理施設のNIMBYからの脱却に繋がると強く感じた見学となった。このような機会を与えて下さった浅川清流環境組合様、および浅川環境テクノロジー様に重ねてお礼を申し上げたい。



集合写真